



Title	國民社會についてNO3 39
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1964-08-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77448
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	I043_01NO339S39.pdf



[Instructions for use](#)

清溪存案ノ

ノ-3

39

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社会について

No. 3.

38. 11. 22



意匠登録 No. 151492 ノ-2



目次

一、テレビの選考用器なる香港局を以て	一
一、イラクのクレーンター	三
一、論述再考	四
一、北平の粹鈕端と現代論	七
一、清演大標	一三
一、全体記号論が不通なる大政也	一六

それらの選挙団案に思や會を向せし

細川隆元、廣島、外一カ 智五氏列席

選挙の結果を見ても昔回のものと強と大差

ない、投票率も甚だ低く、口民の節

心低い、選挙味も、我任方の低投票率。

有力層以外に選挙費を仰付け票は何

れちか、在り、少くとも口民の生活は直結

した同様に選挙費は必要はなからず、

政治家の部の権力者の上役の人の交代

の急い果のため、政界の凶害にもなりつゝ、則

ちのにおも、行を 細川氏は多ん、行を 行を

投票率は中果に近程低く、若場は、

税高、東京では 八丈島が一層高く、恐らく東京

京都の中央区が一番低い

投票率 金口七、二% 赤田^{5年}七、五一

東京六、六 六、四〇

政治は次第に荒しく中心では弱いのを感ずる。

イラクのクーデター(11.22朝日による)

イラクでは11月16日からクーデターが始まっていた
が、十時頃ついに今は平静になり、首相バグダ
ットも午クリス川畔にアヘンクセ思ふおれを電
めぬ。 井のこのクーデターはハリス(アラクの政界)
党(政権)と同党(過激派)の中核たる口民(野党)隊
隊を倒すために行われたものだと、フオリ(過激
革命)党が占據している政府を倒し、過激派を政
治に導かんとするものだとある。アレフ(大統領)がこの
革命の指導者となつた。大統領は過激派
にこれ木下(首相)に引かぬ(過激派)の下の
氏(革命)は思想(野党)の対立からである。
世は最古の文明の發祥地にあつたクーデター
として意味深い。

論述要録

私任何故に口民社令と云ふ語を用いた
けれは、なほなほを説明す可からざるが、
言葉の上の同じ下同義の語の何れかの同
じであつたことには、左の従来「三三三
考」とか「余任社令」と云はれしものと
同義の語下あつたが、口民社令と云ふこと
よ、語のよくを深を死し、いふが、と
文のつ、おく、居住す、し
近頃、土と本下、土地の共同把握の
防諱と云ふ事か、口民社令の「三三三
」の結果の基礎、我等之の識の源泉
下あ、たる、口民社令の結果の上

4

※ 戸名簿

土地共同の據と云ふ事は、純然的
集團としての口家の目的であり、
つまりニテ、或る合作社や口家
社等の

に形をさせていたものであり、この
も実は従来の口家理論に多少に
ゆがみを生じている。高田博士が
基礎を置自身の完成を不明
の言や論破を用いておられたこの
土地共同の據の所説と云ふ事は、確
信を失ったか、と云ふ事である。*
最近の口家の又社名の口家社名
や口家の現解は、今の日本の経済の
ゆがみより、むしろおと昔に
今昔口家経済は急激に変化し
ていよ、従来の現解では不適切
であるから、祖法を改め、新しい口家の

社会的枠組論と近代化論

#

家族が中心の階級社会の枠組下にある

か、何より認めよう。この「我々の世

界」とは世界の初歩である。

口内社会は国家の領域として生きている

社会的統一。口内内の世界。一部の

政治団体の拡大は存在の統一を、経の力

の内の存在。着目し、果して、その

存在。曾ては、その力も、その

城壁が、統一の中心。これ、その

く、その中心。これを、その

備が、その中心。これを、その

中心。これを、その

私は私の用語を社会学の生業とする

と、その中心。これを、その

この中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

その中心。これを、その

集団の

口家がアソシエーションの下で他の目的^的的集団の思積の上に共同社が出来る
 といふ事は都市の構成の内に確信
 する事がある。口民社が口家を
 の他の目的に集団の思積の上に来る
 といふ事は思ひがある。かある。か
 之の場合口家^は他の集団の思積
 積の上の思ひ^は共同社
 自体の組織体はなく、土地共同
 協会の協力を目的とする集団
 である。口家は明白に集団の一つか
 ある。

口家は共同協会の思積を實現

一井の考えれば人が権野の様に土地に
 じつとくっついていられにふさわしい考へ
 であつた。近頃の悪い交通通信
 機具の普及と共に生活文化が一
 変し人の生活生活は急激に変わつてい
 る。是れに伴つて人同国同集團
 構成原理も大いに変わり、政治の
 意味も変わり、政權の争奪も變つて
 くる。誰が政權の座に上つたか
 といふ政治を争ひあはせぬ。か
 かる争亂は口外にも及ぶ。

すよ為の組織体であるとの考。その價
 値人々の共同期待の中にもあるといふも
 のとの自然法則。★
 二小に對して種々の世界の混在の中
 に階級をわけてゐる。優越者の集團は
 其他の集團を支配し、
 種々の保護して行く為の社会的用具
 である。互對する關係を境の外に
 押ししめ出すも辭さぬといふも
 である。口外は守備隊に土地共同
 占據者の上に作るものとの考を
 申さなくてはならない。

一七、二四、ケネディの考を述べた。

11

清原大要

一 前言
序論 同見 社会層の柱の余の發表後

二 社会層の用語

社会生活の基盤（指）に對する余の考

實踐主義 社会層の方法の原則（見）

一 概論

一 直接経験 一 理論的起

基礎社会層

宗族

村落

都市
市民社会層

基礎社会層の整理
一 親に人の社会

生活の界をわし、この界の内外と外とは我を界と得る世界となり、此の社会の压力が、この境界を思ひし、社会の整理である、此の整理を考する、その整理を感

① 土地共同の権の協力は土地占領の存続の
 北人の乳の上に出るたのバビロンの
 高人の打山中下の片に
 洞山の神の森とアシクラ

高田さんやマキハの共々には土地の共同を
 志す心願としてこの層は先づの同の共同の統一
 を予想してこれらに先づ共同の統一を
 よいその上には口家が少く成されてい
 見よのてあよか今日町で草期におげ
 の家にはそんなに今日町の位の上にお
 のてなく成して今日町の位の上にお
 学つてある町成して今日町の位の上
 光の上の町成して今日町の位の上
 俗の統一である

14 今日世界の各地に皆口家を
 凡そ口家は何かを最も
 凡そ口家は何かを最も

口家は金銭による自分の組織化
 マキハは基本としての上の族の集團
 が組織として一つの口家と
 におもえる口家論
 高田氏の
 松見の口家は土地共同と協力の
 為の目的集團として協力の
 上にあり目的集團の一つである
 ソロギンはキツクアツクアツク
 とおの組織を設けし集團
 積本をとしていよかそれ
 可成り土地の上の果して
 思ふ様には土地を
 し石村のちやちや土地を
 をそえおのちやちや
 は我等の組織を
 況は我等の組織を

の中におきていた共同性

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

織か口家下あまと思おもふ

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

にその二体を暴露しキリしや者の

指をえおこらば、こいやは上にも美化

され魂想化され神聖化され

来た口家かどうも拾い集められた

混乱をまじり口家かまの府家

を暴動し乙乱舞し始めたかの

格であらう。

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

◎土地共同性 権者群の上にかぶせお籠

或いは舞台時不買の大半の道具であつて、

演劇の七し物の一つは「客」として、偉大な「団

か他の人々を支取し製造する場であ

る。さうではなかつた。

1/ 法廷の復讐、地域的範囲、² 生活の自足性

1/ 成員のすへて、すへての結合、³ 自足的範囲

(金持階級の三要素) (高田) の三つの要素

金持階級が不平等をいふ大戦中

1 思想より利害も、² 相互に相及す、人

か金持階級が多くなつた、³ 進歩した人

1 貴族階級対立階級(階級)の記号になつた。

1 身分階級の不可解(階級制)の

1 階級の均衡では大抗争(大田)の

1 世界の同様の増大して、² 思想

1 大貴族が優勢の時代になり、³ 何れ上の

1 貴族が口元の最高位階につくか、⁴ 貴族

1 互に階級階級の上を動かす階級者(高田)の

1 兵隊の攻撃(高田)の、⁵ 基地の重要階級

1 大口の大口利用(高田)の、⁶ 大口に押しこ

1 大口の争奪戦が多くなつた。

1 口家は大口の口は思ふ可き下作な

一世号中の口は大口に結んでけり。大口

同の対立のキセイとなす(い)

一口家は金体証券の基礎の上に成立す

のてあか金体証券を混雑してす(い)

金体証券は自身も期付すす(い)

一口家は自分達の為に自分達(い)

この考へも捨てな(い)

の必要の為に成立せしめ(い)

一口家は口家は支配を被支配を

持続的に支配する為に用(い)

てあす。この用は口家が設(い)

あす。是は古も今も(い)

17 今の様を大(い)

は今の所、ある程度まで、村民地保民の心

となり、西口内、小敷民衆の立場に

て考へ、その下で、西口内、宗業、統法を

最高の徳意より、その特殊し、また

で、見越して、お返しである。西口内の

本質は、統治、その最も、徳意の

神統法、其が、徳意、統法、その最も、正しく

讀み、その最も、正しく、徳意、統法、その最も、正しく

あり、西口内、徳意、統法、その最も、正しく

徳意、統法、その最も、正しく、徳意、統法、その最も、正しく

集團、徳意、統法、その最も、正しく、徳意、統法、その最も、正しく

徳意、統法、その最も、正しく、徳意、統法、その最も、正しく

18 徳意、統法、その最も、正しく、徳意、統法、その最も、正しく

19

お三のもの口良江方を強断しよと只よ